

# 栃木県社会福祉士会会報



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 発行 一般社団法人栃木県社会福祉士会  
TEL 028-600-1725 発行責任者 松永千恵子  
FAX 028-600-1730 編集責任者 福原 健治  
ホームページアドレス <http://www.tochigi-csw.org/>

## 55号

発行日 令和3年1月20日

## 羅針盤 新型コロナウイルス対応の現状と課題



学校法人 国際医療福祉大学  
介護老人保健施設マロニエ苑  
相談室室長 河原 典子



|                              |     |
|------------------------------|-----|
| 羅針盤                          | 1   |
| トピック                         | 2~3 |
| 会長の視点                        | 3   |
| 授産製品・店舗紹介                    | 4   |
| 福祉士おもしろいだけリレー                | 5   |
| ニューフェイス紹介                    | 5   |
| 情報の広場                        | 6   |
| 今日の一冊                        | 6   |
| 福祉士会通信                       | 7~8 |
| 開業型社会福祉士支援プロジェクトチーム発足のお知らせ   | 8   |
| スクールソーシャルワークプロジェクトチーム発足のお知らせ | 8   |
| 栃木県社会福祉士会メールマガジン登録のご案内       | 8   |
| 会報についてのご意見募集                 | 8   |
| 編集後記                         | 8   |

2020年1月に日本で初の新型コロナウイルス感染者が出てから1年、現在、第3波が到来し、栃木県をはじめとした全国で感染拡大が顕著な状況となっています。そのため、日常においても「自粛・3密回避・消毒・手洗い・マスク着用など」今までとは大きく異なった対応や判断を求められ、日々熟慮を重ねながらの生活を強いられています。

新型コロナウイルスは当初から「施設等での集団感染は高リスク」と言われてきました。そのため、流行とともに始まった施設での緊張体制は今なお続いています。当施設では、苑内での発生及び感染防止のため、2月下旬より日本老年医学会の「介護老人保健施設における新型コロナウイルス感染症対応ガイド」に基づき「施設内での直接の面会は不可とし、やむを得ず面会を認める場合も、施設内への立ち入りは可能な限り制限」することをご家族にも提唱し、ご理解をいただけてきました。しかし、未だ先の見通しが立ちにくい状況の中で、当たり前でできていた面会が当たり前ではなくなりました。ご本人やご家族から「直接会って顔が見たい」という要望が多くなり、感染の拡散状況をみながら回数や時間、人数、アクリル板の設置等の制限を徹底した上で、段階的に面会解除の検討を重ね、個別に対応してきました。現在は、残念ながら感染拡大に伴い、再び制限をかけざるを得ない状況となっています。また、感染防止のため入所前にはPCR検査を実施し、皆様が安心して利用できるよう努めています。



今後も流行は長期化することが予想されるため「感染症との共存」という環境の変化への適応が必要で、施設では発生時の初期対応、ゾーニングの見直し、防護服の着脱手順、職員のメンタルヘルスなど感染防御の強化が必至です。私たちは「このようなリスクがあり得る」と認識していなければ、有事の際に備えることはできません。

専門家の見解によれば、更に1年はこの状況が続くと言われていますが、ワクチンの開発など取り巻く環境は確実に変化しています。100年に一度と言われるこの難局に、皆が失望や諦めのような思いをもつこともあります。私たちには「安心・安全に暮らしていただく」ために福祉に従事する者として大きな責任と役割があります。関わりのある人々の気持ちを途切れさせることなく、共に乗り越えていくために「今、できる最良の実践は何か」を組織や地域に働きかけていく使命を私たち専門職は担っています。



# トピック 新型コロナウイルスに関するアンケート結果

新型コロナウイルス感染予防対策に関しては、各事業所ともにご苦労されていることと思います。いくつかの事業所に「現状の取り組みと課題について」のアンケートを行い、回答をいただきましたので、その内容を報告させていただきます。なお、回答をいただいた事業所の種別は、高齢者関係（2か所）、障がい児者関係（2か所）、相談機関（2か所）、教育機関（1か所）、ボランティア関係（1か所）です。ご多忙の中、ご協力いただきありがとうございます。

各事業形態別に（1）現状と取り組み内容、（2）課題をまとめました。

## 施設関係（入所・通所等）

### （1）現状と取り組み内容

#### ○ウィルスの侵入防止対策

清掃、消毒、換気、マスク着用／職員の外出自粛、毎日の健康チェック、記録／外来者の健康チェックと出来るだけ玄関での対応／面会は、web、窓ガラス越し、クリアパーテーション越し等／看取りで家族付き添いの時は、居室の窓から出入り／外来者が建物内に入らなきゃならない場合は、手指消毒、マスク、フェイスシールド着用等／外部との会議は、出来るだけ書面開催／職員研修会は、Eラーニングの活用

#### ○入所者・利用者の感染予防

健康チェック、手指消毒、マスク着用／外出、レクリエーションの自粛／座席の間隔や位置を変更／テーブルにクリアパーテーション設置／発熱や必要に応じてPCR検査実施

#### ○知識の習得

情報収集と感染予防のマニュアル作成／発生を想定しての対応検討

### （2）課題

- ・入居者の外出自粛、運動不足、面会制限でのストレスと筋力低下
- ・職員も感染症に対する対策がこれで良いのかと自問自答して、常に「うつらない、うつさない」と恐怖心
- ・清掃、消毒等の業務負担の拡大
- ・衛生材料の不足と値段高騰による入手の困難
- ・元々人員不足なうえに職員や家族の発熱等で休業した際の勤務調整の難しさと、出勤者の疲弊感

## 訪問関係（相談・支援等）

### （1）現状と取り組み内容

手指消毒、マスク着用、換気等／利用者家族に連絡して訪問せずに電話や郵便での対応／成年後見人業務で入院中の面会は、検温、手指消毒、マスク着用、ガラス越しでの会話（病院の指示に従う）／家裁、行政官庁とのやりとりは感染予防で実施

### （2）課題

- ・新型コロナウイルスに対して過剰に恐れて、活動を制限する専門職が増えてないかとの危惧
- ・ICTを活用する事も時には大切だが、面と向かわないと気づけないこともある。
- ・コロナ禍によるニーズをつかみ切れていない。
- ・オンラインでの面会や会議も感染リスクは抑えられるが、質は低下していると感じる。
- ・感染予防とニーズに対しての支援のバランスが難しい。

## 教育機関（大学）

### （1）現状と取り組み内容

後期から対面授業再開し、学生は毎日検温して健康管理フォームへの入力／入室時は、手指消毒、マスク着用（必要に応じてフェイスシールド着用）、換気／教室は収容定員の7割以下に制限

### （2）課題

- ・オンライン授業の場合、感染の心配もなくグループディスカッションも出来るが、学生の学習意欲の維持が難しい。また、教員や学生同士の交流が出来ず不安だとの声

## ボランティア関係

### （1）現状と取り組み内容

感染予防を徹底しながらの食品の提供支援と生活困窮者支援の実施／フードバンク利用者は、12月26日現在365人（886回）で、昨年1年間の1.5倍／利用の男女比が、2018年度は2.5：1から2：1に狭まり、女性の利用が増加（失業や収入減少で不安定雇用の子育て世代のしわ寄せが顕著）／「きずなボックス」（台風19号被災者支援から始まった宅配便）で、食品を学生、外国人、母子世帯（ひとり親家庭）中心に送る活動を7回実施

### （2）課題

- ・通常の困窮者支援とコロナ関連緊急支援策を合わせながらの相談活動

「社会福祉士としての役割等について」という設問に対しては、以下の回答がありました。

- ・正しい知識の習得と、多職種、行政機関、医療機関、地域、家族等との連携や調整
- ・子供たちの顔も見られなくなり、従来の生活が出来なくなっている人も予想以上に多いので、街の相談所としてアウトリーチが必要
- ・感染予防とニーズに対して支援のバランスを考えながら、課題を抱えている本人や家族等への介入
- ・SDGs（持続可能な開発目標）にもあるように、『あらゆる人々の人権を守る』『誰一人として取り残

してはならない』と言うことを成し遂げるためにも、リスクに対し正しく対処し、制限しすぎない活動を心掛けたい。

- ・まだまだ、新型コロナ関連の生活困窮者は続くと思われる。NPO 法人での活動は契約時間を大きく超過しており、体力的にもきついですがもう少し頑張りたい。



## 会長の視点

### コロナ禍で社会福祉士として出来ること

一般社団法人栃木県社会福祉士会

会長 松永 千恵子



2019年12月、中国武漢から始まった新型コロナウイルスは、1月に日本に上陸し、1月16日には、武漢に滞在し発症した男性が日本人患者第1号と認定されました。それから第一波の感染、4月には緊急事態宣言、そして第二波の感染、今や第三波に日本は襲われ、状況はなかなか収束しません。収束するどころか、この原稿を書いている今、栃木県のみならず日本全国で感染者が増加傾向にあります。

ニュース報道等で皆様ご承知のように、その影響により、パート及び派遣社員の解雇、飲食店の閉鎖、会社の倒産と生活に困難を抱える人たちが増えています。

このような状況下、栃木県社会福祉士会で出来ることはないかと理事会で検討し、6月から「フードドライブ運動」を始めました。多くの会員皆様のご協力により、米、味噌、ラーメンをはじめ様々な食料品が集まり、これまでに買い物のバスケット5個分、およそ30キログラムの食料品をとちぎボランティアセンター様に寄付させていただきました。

年末年始を様々な生活上の不安を抱えながらお過ごしになる人たちのことを考慮し、栃木県社会福祉士会としてさらなる活動ができないかと考えますが、如何せんこの新型コロナウイルス感染予防のために、人が集まっ

た力の程、お願い申し上げます。ご寄付のある場合は、事務局までご連絡をください。

天然痘は大化の改新の引き金になり、そしてペストは中世ヨーロッパ社会を崩壊させました。そして今、新型コロナウイルスは現代社会に変容を迫っています。

この新型コロナウイルスの感染に関して、フランス人作家、カミュの小説「ペスト」が多くの人の中で読まれているといわれています。小説ではフランスの植民地であるアルジェリアのオラン市をペストが襲い、苦境の中、民衆たちがペストに立ち向かうために団結していく様を描いています。医者、市民、よそ者、逃亡者と、登場人物たちはさまざまですが、全員が民衆を襲うペストの脅威に、助けあひながら立ち向かっていきます。小説の中のある人物は、次のように述べています。「この伝染病に対して私たちは、自分のできることを誠実にやっていくしかない。」そうです。新型コロナウイルスの特効薬もない今、私たちがこの現代のパンデミックに誠実にそして肅々と対応すること、これが収束への近道であると思います。この新型コロナウイルス禍の中で、社会福祉士の皆様が生活上の困難を抱える人たちのために働く「キラリと光る存在」であるよう願っています。



## 授産製品・店舗紹介

このコーナーでは、障害のある方々が作る授産製品や販売する店舗をご紹介します。

### 社会福祉法人 太陽の里福祉会

#### 北風と太陽（就労継続支援B型事業）

住所 栃木県那須塩原市戸田708-1

電話 0287-73-8700

社会福祉法人 太陽の里福祉会では、平成31年4月に旧戸田小学校を利用して「北風と太陽」を開所しました。「北風と太陽」では、就労継続支援B型としてレストラン&カフェを運営し、利用者の方には清掃や準備、営業中のホールや皿洗いな



ど様々な仕事に取り組んでもらっています。また、那須塩原市の「アートを活かしたまちづくり計画」に参加し、ギャラリーを併設しています。ギャラリーでは、毎月県内外の作家さんたちの展示会を行っています。

「北風と太陽」は「福祉とアート」を融合し、一般の方には何となくなじみの薄い両者を知る・繋がる場として位置付け運営しております。

お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。お待ちしております。



営業時間：ランチ 11時から13時30分ラストオーダー  
カフェ 14時から15時30分ラストオーダー  
定休日：火曜日・水曜日・第1木曜  
(年末年始休みあり) 予約不可



### 特定非営利活動法人 ひまわり

#### 就労継続支援B型事業所

住所 栃木県宇都宮市陽南3-12-4

電話 028-658-3299

「ひまわり」は就労継続支援B型として精神に障がいのある方の「働きたい」を応援しています。

「請負事業」として建築・自動車部品の組付け・袋入れ・検査・仕分け等や印刷物のラベル貼り・封入等様々な作業を行っています。



色々な事にチャレンジしてもらい自分に合った作業に取り組んでもらっています。苦手克服より得意を伸ばすことに力を入れています。

「自主製品」としてはカード作り・編み物・缶バッジなど自分の特技を生かして自立に繋げている方もいます。カードの作成はすべて手描きで「茂平次ブランド」として製品開発をしています。藍染・草木染も行っており利用者さんの持っているこだわりを生かして「匠」と呼んで自信を持って作業に取り組んでも

らっています。今年に入り利用者さんが手作りのマスクをプレゼントしてくれたことがきっかけで「藍染立体マスク」を作り始めたたくさんの方に買って頂きました。JR宇都宮駅にある「とちぎの銘店丹波屋くらしく」とコラボさせて頂きオリジナル商品として「先丸藍染靴下」・「栃木産マリーゴールドストール」・「リバーシブル藍染マスク」を販売しています。その他にも麻糸や毛糸を染めてバックやショール・帽子なども作っています。商品のほとんどが「一点物」です。その他宇都宮市役所内のわくわくショップや福祉プラザにも置いて頂いています。



# 福祉士 おもいのたけリレー

県内で活躍する社会福祉士が、実践への「おもいのたけ」を語っていくコーナーです。このコーナーは、リレー方式で次の社会福祉士につないで掲載していきます。  
掲載内容：①氏名（ひらがな）、②所属、③趣味、④実践へのおもいのたけ

- ①海老沼 恵子（えびぬま けいこ）
- ②足利市社会福祉協議会 児童養護施設 泗水学園
- ③ドラマ・映画鑑賞
- ④私は現在、児童養護施設に勤務しています。様々な背景・要因で入所に至っている子ども達が安心・安全に生活できることが第一であり、日々穏やかに楽しく過ごしてほしいという思いで支援しています。時に穏やかではなかったり、やってあげたい気持ちはあっても集団生活であるが故に一般家庭と同じようにできずにジレンマを感じたり、対応に悩むことがありますが、子



ども達に少しでも「自分は大切にされる存在なのだ」と認識してほしいと思っています。すぐに結果が出なくても、自立したり家庭をもったりして将来的に分かってくれることを信じ、今だけではなく、数年先・数十年先の未来を見据えて支援しています。子ども達は地域や関係機関の方々に支えられて生活しており、地域・関係機関との連携も不可欠であります。入所児のケアが第一優先ですが、施設の持っている機能をどのように地域に還元し、貢献していくかも今後の課題であると感じています。

次回は社会福祉法人恵友会障害者相談支援センターいぶきの小井田広さんに繋がります。

## 若手のエネルギー溢れる新社会福祉士をご紹介します。

### ニューフェイス紹介

- ①氏名（ふりがな） ②所属（事業所名、職種）
- ③マイブーム（趣味、特技、こだわり等）
- ④社会福祉士になったきっかけと抱負

- ①鈴木 桜理（すずき いおり）
- ②社会福祉法人壬生町社会福祉協議会、社会福祉課地域福祉係
- ③幼少期から Disney が大好きです。ここ数年では、ショーやパレードでのキャラクターをプロマイド風



- に撮影することにハマリ、写真という趣味も増えました。今ではキャラクターだけでなく、人や動植物、料理などの撮影も楽しんでいます。
- ④私が社会福祉士を目指そうと思ったのは、高校3年生の頃、自分が将来どんな仕事につきたいのか考えていた時でした。子どもが好きだから、保育士か。あるいは小学校の先生か。人助けがしたいという思いから看護師という単語が頭をよぎったこともありましたが、しかし、どんなに考えてもずっと頭の中をめぐっていたのは「ひとの思いに触れ、そのひとの気持ちに寄り添いながらお手伝いできる何かがあったい」という気持ちでした。

そんな私が社会福祉士の存在を知ったのは、友人に誘われて参加した大学のオープンキャンパスの時です。たくさんある学科紹介の中で「福祉の専門職」という言葉をはじめて目にしました。その言葉に惹かれ向かった先で説明を受けた私は、「福祉の専門

職」という言葉にさらなる魅力を感じたのを覚えています。

大学に入学し、ひとに寄り添うこと、その人を受け入れることの大切さや難しさを学びました。講義や実習をとおり、ただ近くにいる丁寧な話を聞きとればよいというわけではなく、その方ひとりひとりの違った考え方を受け止められなければ、本当の意味でその人を理解したことにはならないと気づかされました。

そして社会福祉協議会の職員となり地域福祉係に配属された今、私は、地域にお暮らしの子どもたちやご高齢の方々と多くかかわるようになりました。大学で気づかされたことは、私のひととかかわりを持っていく中で、大切にしていることのひとつとなっています。仕事でかかわる方々の考え方はひとそれぞれで、時にその方の思いと自分のなかの思いとの間で葛藤が生まれることもあります。そんな時は「どうしてそう思うのか？」と疑問を持つようにし、一つ一つ知っていくことで相手を受け入れ、ひとの気持ちに寄り添う支援をしていきたいと思っています。



# 情報の広場

## 第16回とちぎソーシャルケアサービス学会に参加して

栃木県社会福祉士会 副会長 福原 健治

令和2年9月26日（土）、県内医療・介護・福祉の専門職6団体で構成されているとちぎソーシャルケアサービス従事者協議会主催の学会に参加させていただきました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中でしたが、約60人がとちぎ福祉プラザに於いてソーシャルディスタンスやマスク着用、手指消毒など感染予防に努めながらの開催となりました。

メインテーマは、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは何か？」～当事者の意思決定支援の在り方及びその実現のための生活支援記録法～。第1部は、社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス東埼玉総合病院地域糖尿病センター長の中野智紀氏による基調講演「求められるACPとは？」で、ACPとは「人生会議」とも訳され、万が一のときに備えて自分が大切にしていることや、どのような医療やケアを望んでいるかなどについて、自分自身で考えたり、自分の信頼する人たちと話し合ったりすることで、その望みを実現するためには複雑な生活の課題もあり、医療・介護・福祉だけでなくご家族や地域の支えなども必要となってきます。それには当事者と伴走するための情報共有に生活記録が必要ですが、ニーズや気づきなど6項目で記録されている生活支援記録法（F-SOAP）

が有用であると強調されていました。

第2部では栃木県県北健康福祉センター生活困窮者自立支援相談支援員の星野智枝氏他2名によるパネルディスカッションが行われ、同記録法を活用しての当事者支援実践例と効果を発表されました。

ACP「人生会議」とは、国が示している「ガイドライン」もあり、人生の最終段階において本人や家族・医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い、取り組むための新しいケアのあり方で、それには生活支援記録法（F-SOAP）が有用であると知り、早速、著書を購入させていただきました。当事者が最期まで望みを叶えられるような支援が達成出来るよう今後も努力したいと思います。



## 今日の一冊

ブレイディみかこ著

「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」

新潮社、2019年

本書はメディアでも紹介され、話題になったため、手に取った方も多いのではないかと思います。書店で最初に本書を見かけたとき、タイトルが何となく気になる、話題の本らしい…そんな理由で購入しました。小説かと思って読み始めると、英国に住む著者の子育ての日々を描いたノンフィクションで、少し前まで学力的に底辺校と呼ばれていた中学校に通う著者の息子とその友人達を見守った母（著者）の1年半が描かれていました。

本書では、優等生の「ぼく」の学校生活を通して、人種差別、ジェンダー、貧困・格差などの問題に触れられており、重いテーマではありますが、想像しやすく、軽やかに読める文章で書かれています。これらのテーマは社会福祉とも関連の深いものであり、自分なりに理解しているつもりでした。しかし、本書の中で親子が直面するこれらの問題について自然と一緒に考えさせられているうちに、理解している“つもり”だったとハッとすることが何度もありました。いろいろな

人・考え方があって当たり前と分かっていても、無意識のうちに人を区別して認識してしまっていないだろうかと改めて自分を見つめるきっかけになる一冊です。

日本でも多様性について語られ、色々と叫ばれるようになりましたが、どこか他人事のように捉えていたり、自分と異なる生き方・考え方を受け入れ難い面が強いように感じます。世の中で起こっている問題を、「自分のすぐ近くで起こっていることだよ」と語りかけてくるようなこの本を、まだ手に取ったことのない方にお勧めしたいです。

国際医療福祉大学  
梶田 真弓



栃木県社会福祉士会のブロック会・委員会・PT(プロジェクトチーム)の活動を紹介する掲示板です。

# 福祉士会通信

社会福祉士の皆さま、日頃の実践の質を高めるため、福祉士同士の輪をつくるため、是非会活動に参加しましょう。福祉士以外の方におかれましては、ブロック会等で研修会等を企画しております。是非ご参加ください。

お問い合わせは、栃木県社会福祉士会までお願いします。

権利擁護委員会(阿部和史) 生涯研修センター(富田裕之) 社会福祉評価委員会(篠崎文男)  
権利擁護センター(小口みほ子) 広報委員会(福原健治) 災害福祉委員会(小澤勇治) 県北ブロック(福原健治)

## 権利擁護委員会

阿部 和史

『新型コロナ禍における権利擁護委員会の活動』

権利擁護委員会では、弁護士会との協約により高齢者及び障害者虐待対応センターを設置し、弁護士とチームで契約した市町村へのアドバイザーや講師の派遣を行っています。

派遣は一時依頼が止まっていたましたが、現在は感染対策を実施しながら行っています。

マスクや場合によってはフェイスシールド着用やマイクなどの消毒など、まだ手順に十分に馴れたと言いますが、抜けのないよう実施しています。

宇都宮地方検察庁への社会福祉アドバイザーの派遣も同様に依頼が止まっていたましたが、検察庁側からの感染対策実施の配慮があり、再開して実施しています。(しかし、今年になって、緊急事態宣言もあるので、依頼は止まっています。)

高齢者及び障害者虐待対応・予防への研修を県との共催や委託で実施していますが、感染予防の対策を行いながらはもちろんの事、開催時期の変更や時期の変更に伴う内容の見直しなど、対応に苦慮しながらも、県と相談しながら委員全員で協力し実施しています。

## 生涯研修センター

富田 裕之

○研修部会(基礎研修・独自研修・実習指導者養成研修)

・基礎研修は、Ⅰ(集合研修を年間2回)、Ⅱ(同年間9回)、Ⅲ(同年間10回)開催を計画しております。今年度は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、開催時期を当初より後ろ倒しに再計画しました。しかし、全国の感染者数の激増により開催時期をさらに延期したり、開催方法をZOOM開催に見直しを図っているところ受講できる方に努めていきたいと考えています。

・独自(任意)研修は、栃木県士会独自の研修を企画・運営しています。1回目を、「いつでもどこでもアンガーマネジメント」と題して、栃木県社会福祉士会の事務局長野尻政彦氏をお招きし、11月29日(日)に開催しました。2回目は、3月6日(土)に地域共生と改正社会福祉法について、元栃木県社会福祉士会会長の檜山光治氏と市貝町総合相談支援センター相談支援包括化推進員の薄井宏仁氏をお招きしてZoomで開催する予定です。詳しくは研修案内をご覧ください。皆様のご参加お待ちしております。

・実習指導者養成研修は、2月27日、28日の2日間、実習指導者講習会を開催予定です。今年度予定しておりましたフォローアップ研修を中止し、代わりに開催することにしました。また、新型コロナウイルス感染症の予防のために、Zoomでの研修会を実施することにしました。

○調査研究部会

調査研究委員会では、「医療福祉資源が乏しい地域の終末期在宅療養を可能にするケアシステムのあり方について」の調査研究を引き続き行っております。新型コロナウイルスの感染予防のために足踏み

していますが、研究成果をまとめ次第皆様に報告いたします。

○地域包括ケアシステム部会

地域包括ケアシステム部会は、現在メンバーの活動自体が難しくなっており、研修部会に発展的吸収し、活動を続けていくことになりました。今後、地域包括ケアシステムについての活動にご興味のある方は、研修部会までご連絡ください。

## 社会福祉評価委員会

篠崎 文男

委員長の篠崎文男です。当委員会は、第三者評価と外部評価の活動をしています。第三者評価は、福祉サービス事業所の提供するサービスの質に対して評価する事業です。対象事業所は、栃木県内の保育所や障がい者・高齢者の施設などです。外部評価は、認知症対応型グループホームを行う事業所に対して評価する事業です。どちらの評価活動も事業所の欠点を指摘するのではなく、事業所の努力・工夫している点を評価しています。今年度の受審状況は第三者評価が3件、外部評価が32件でコロナ禍の中、訪問調査の聞き取りの場所を相談室や事業所のテラスなど工夫した場所で活動しております。また、訪問時には利用者との接触を避けて安心・安全の評価活動を行っています。

## 権利擁護センター・ぱあとなあとちぎ 小口 みほ子

ぱあとなあとちぎは、13名の運営委員を中心に1報告書部会、2フォローアップ部会、3コーディネート部会、4養成研修部会と4つの部会活動をしています。

1報告書部会は、8月と2月の定期報告書のチェックと年2回のぱあとなあ通信の発行をしています。

2フォローアップ部会は、県北・県央・県南と地区別に年2回ずつ計6回研修会を開催し、事例検討や専門職による講義など、ぱあとなあ会員の為のスキルアップを図っています。今年度はコロナの影響によりZoomでの研修も実施しました。ぱあとなあ会員の名簿登録更新要件で研修参加が必須となり多くの会員が参加しています。

3コーディネート部会は、裁判所からの成年後見人等の推薦依頼に対して、ぱあとなあ会員より候補者を推薦します。年々家裁からの推薦依頼が増加し困難なケースもあり、また初めて受任する人等に対しても受任者の支援体制を構築していきます。

4養成研修部会は、2020年度人材育成研修を開催しました。受講者は9名(他県5名含む)で全員無事終了しました。今年度の研修は全てZoomを併用して実施しました。2021年度も人材育成研修開催予定です。受講要件は基礎課程(基礎研修Ⅰ～Ⅲ)を終了または、日本社会福祉士会の旧生涯研修制度の共通過程を1回以上終了している人も対象となりますので、該当する人は是非応募してください。

2021年2月21日に名簿登録研修を行います。聴講生も募集しますので皆さん参加してください。

## 広報委員会

福原 健治

今回も会報作成の打ち合わせは、新型コロナウイルス



スの感染予防のためオンラインで行い、その後もメールでのやり取りを実施しました。

ところで、広報委員会の活動は、主に年2回の会報発行とホームページ、メールマガジンの更新ですが、委員のメンバーが少なくなっております。一緒に活動して下さる方はいませんか。随時、募集をしておりますので、広報活動に興味がある方はぜひ事務局までご連絡ください。

栃木県社会福祉士会の活動取材したり編集したりする中で、活動の内容や実践者の素晴らしさを知ることが出来ますよ。また、人脈も広がります。

#### 災害福祉委員会

小澤 勇治

2020年度より災害福祉委員会として委員会活動を開始しました。2019年栃木県内各地に甚大な被害をもたらした台風19号の水害に対し、会長を本部長に災害対策本部を理事会内に設置し、災害の状況把握と会員の安否確認を素早く行い、その後は地域・職場で復旧やボランティア支援に携わってきました。その経験から本会の災害対応ガイドラインを策定しその運用を目的とした委員会として発足しました。栃木県災害福祉広域支援協議会や関東甲信越ブロック災害連携会議、福島県からの避難者住宅確保サポート事業受託などの参

加実績に重ね、日本社会災害対応ガイドラインを踏まえ活動を開始しました。9月19日に理事2人、会員5人の計7人（緊急業務により1人欠席）にて第1回災害福祉委員会が開かれ上記の件が確認されました。その後、2020年度都道府県社会福祉士会災害担当者会議に担当理事2名が出席し全国の経験を学んでいます。栃木県DWATへの参加仕組みやコロナ禍における支援活動についても新たな実践課題がありますがガイドライン作成の過程で具体的に進めていきます。その一つに困窮世帯への支援としてフードドライブを開始し12月末までに計6回食品50.3kgを寄贈しています。

#### 県北ブロック

福原 健治

今年度は、学生や新入社会福祉士を中心に集まっていたいただき、県北で活躍している社会福祉士の実践を発表していただくシンポジウムを計画しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で開催することが出来ませんでした。

また、いつもの洋風居酒屋での研修会&懇親会も開催出来ずにいます。新型コロナウイルスが落ち着いたら、それぞれの職場でのご苦労や工夫の中で逆に生まれた社会福祉士の役割等について語り合いたいと思います。早く、皆さんに会いたいです。

### 【開業型社会福祉士支援プロジェクトチーム】発足のお知らせ！

当会において“開業型社会福祉士の連携”“開業を目指す社会福祉士の支援”を目的としたプロジェクトチームを2021年4月1日に発足させることとなりました(^^)/ 多職種連携と言われる今日、同職種連携も必要では、と言うことでチーム員を大募集！！ビジネスとしての社会福祉士のビジョンは？資金繰りは？今後

の事業展開は？等々を共に考えたいと思います。まずは下記お問い合わせ先へ。お待ちしております。

《お問い合わせ先》 mail:hiromatsu.2944@gmail.com

☎090-3230-2944

(OWL. Tochigi LLC 松本 裕行)

### スクールソーシャルワークプロジェクトチーム発足のお知らせ

2021年4月より、当会にてスクールソーシャルワークプロジェクトチームを発足させることとなりました。

現在、スクールソーシャルワーカーとして勤務されている会員に限らず、児童・生徒への支援を行っている方、これから関わっていこうと考えている方の参加を呼びかけます。今後、メンバー間で情報・課題を共

有し、研修会の企画や県内の教育委員会等への提案、日本社会福祉士会の全国実践研究集会への参加などを予定しています。参加希望・お問い合わせは、下記あてメールしてください。(担当：船山、野尻)

mail:tacsw-office@tochigi-csw.sakura.ne.jp

### <栃木県社会福祉士会メールマガジン登録のご案内>

広報委員会ではメルマガ【栃木県社会福祉士会「情報交流の場」】にて、研修会の案内や国県市町等の新しい情報等を配信しております。

ご希望の方は右記アドレスからご登録してください。

info@tochigi-csw.sakura.ne.jp

・件名に『メルマガ登録希望』というタイトルをつけて、本文に「氏名」、「会員番号」、「受信用のメールアドレス」を、メールにて送信してください。

#### 【会報についてのご意見や投稿を募集しております！】

取り上げて欲しい内容や会報の感想、また掲載して欲しい投稿をお寄せください。

ご意見や投稿には、「会報の意見」とタイトルをつけて、事務局までFAX(028-600-1730)でお送りください。差し支えなければ、氏名、連絡先をご記入ください。匿名でも結構です。

皆様の貴重なご意見を会報作りの参考にさせていただきます。

#### 編集後記

栃木県警が人気キャラクターに委嘱状を渡すなど、脱「止まってくれない栃木県」キャンペーンが展開されています。私もほぼ毎日、信号機のない横断歩道を利用していますが、止まってくれるのは、宅配便業者と稀に個人の車両。幼稚園や介護施設の送迎車もよく通る路線ですが、減速すらしてくれません。利用者には優しくても、地域住民には？

福祉に携わる者として、目の前の対象者、関係者だけでなく、地域へのアプローチも意識した言動を心掛けていきたいものです。

(広報委員 野尻)